

北九州高速鉄道株式会社

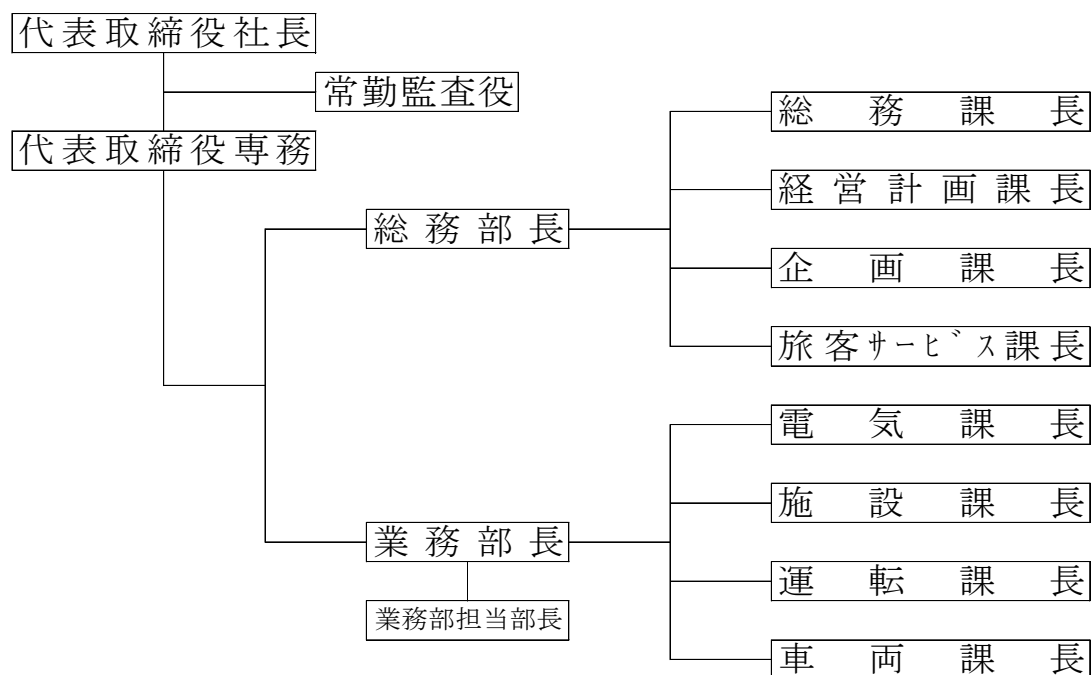
北九州高速鉄道株式会社は、鉄道の使命である輸送の安全性・運行の定時性の確保に努めています。

また、利便性や旅客サービスの向上に努め、乗客の増加対策を図るとともに、経営の効率化、経費の節減等経営基盤の安定に努めています。

〔設 立〕	昭和51年7月31日
〔所 在 地〕	北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号 Tel 093-961-0101
〔目 的〕	市街地の拡大及びモータリゼーションの激化による都市交通問題に対応し、健全な市街地整備を促進するため。
〔事 業〕	軌道法による一般運輸業、広告宣伝業等
〔資 本 金〕	3,000,000千円 ＜うち本市出資額 3,000,000千円（100.0%）＞
〔決 算 期〕	毎年3月31日
〔主 務 官 庁〕	国土交通省
〔本 市 所 管〕	建築都市局計画部都市交通政策課（Tel 093-582-2518）

1 法人の組織

(1) 機構図



(2) 役職員数

	人数				平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	6人	1人	2人	3人	60歳
職員	134人	0人	0人	134人	50歳

(3) 役員名

〔代表取締役社長〕	岩科 健一	(株式会社ニューシーサイドスパ代表取締役社長)
〔代表取締役専務〕	廣田 誠秀	
〔取締役〕	石丸 美奈子	(財団法人北九州市芸術文化振興財団理事)
〔常勤監査役〕	疋田 慶一	(北九州市選挙管理委員会委員長)
〔監査役〕	高島 利行	(北九州市建築都市局総務企画部長)
〔 〃 〕	白川 祐治	(株式会社福岡銀行取締役常務執行役員北九州本部長)

2 事業の概要等

<北九州モノレールのあらまし>

(1) 営業キロ 8.8km 全線複線 (建設キロ9.1km)

(2) 駅 数 13駅 (駅間平均距離733m)

(3) 建設費

インフラ部	332億円
インフラ外部	349億円
計	681億円

(延伸区間)

インフラ部	105億円
インフラ外部	30億円
計	135億円

(4) 運転時分 19分

(5) 運転本数 平日 105往復 土日祝 101往復

(6) 運転時隔 朝ラッシュ時 6分 昼間 10分

(7) 運転速度 最高 65.0km/h 平均 33.9km/h
表定 27.4km/h

(8) 車両数 40両 (4両×10編成) 全電動車

(9) 車両規格 長さ 1編成60.2m 高さ 4.92m 幅 2.98m

(10) タイヤ 1両当り2台車、1台車につき10本 (走行輪4本、案内輪4本、安定輪2本)
ゴムタイヤ (チューブレス)

(11) 主電動機 75kW (全電動車、1編成1, 200kW)

(12) 定員 392人 (うち座席数145人)

(13) 運転方式 ワンマン運転

- (14) 保安設備 連続列車検知式自動列車制御方式 (A T C / T D)
- (15) 通信設備 列車無線及び集中ホーム監視装置
- (16) C T C 中央集中処理方式による制御
- (17) 桁本数 本線 P C 565本 鋼 45連
- (18) 桁規格 標準桁 (P C 桁)
サイズ L=20m H=1.5m W=0.85m
- (19) 支柱数 R C 252基 鋼 125基
- (20) 桁高 道路面上 (最大) 19m (最小) 7.9m (標準) 12.5m
- (21) 変電設備 D C 1,500V 3ヵ所 (6,000kW)

3 主な事業実績 (平成22年度)

開業から27年目を迎えた当期は、お客さまの安全、正確、快適、利便の確保に努め、順調な運行を続け、開業からの輸送人員は、2億8,894万人に達しました。

前期は、長引く不況に追い打ちをかけた新型インフルエンザの流行等の影響を受け大幅に減少していましたが、当期の輸送人員は、前期の反動に加え競馬利用客が増加したこと等により、1,104万人 (前期比17万人、1.6%増) となりました。

運輸収入は、輸送人員の増加に伴い、18億8,402万円 (前期比2,311万円、1.2%増) となりました。

運輸雑収については、平成19年度の広告業務直営化以降好調を維持してきた広告料が不況の影響を受け大きく落ち込む等で、1億7,755万円 (前期比2,309万円、11.5%減) となり、営業収益は、前期とほぼ同額の20億6,156万円となりました。

営業費は、車両改造等大規模設備更新の進捗により減価償却費は増加しましたが、修繕費や業務経費の節減努力により19億1,421万円 (前期比4,640万円、2.4%減) となり、当期の営業損益は、1億4,736万円と大幅な増益 (前期比4,642万円、46.0%増) となりました。

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、2億3,884万円の利益 (前期比5,068万円、26.9%増) となりました。

上記経常損益に特別損失及び法人税等を差し引いた当期純損益は、車両改造更新等に伴う固定資産除却損が大幅に増加したため、利益が大幅に圧縮され2,252万円 (前期比3,521万円、61.0%減) となりました。

4 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成21年度	平成22年度
出 資 金	3,000,000	3,000,000
補 助 金	0	0
委 託 料	337,275	360,042
貸 付 金 残 高	1,300,000	1,300,000

5 資産・収支の状況（平成22年度決算）

(1) 貸借対照表

平成23年3月31日現在（単位：円）

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	3,920,130,742
流動資産	1,407,063,014	流動負債	765,873,049
現金及び預金	1,261,096,241	未 払 金	616,848,276
未収運賃	17,276,120	未 払 費 用	6,416,667
未 収 金	16,411,518	未 払 法 人 税 等	17,825,100
未 収 収 益	1,585,340	未 払 消 費 税 等	14,042,401
商 品	752,272	預 り 金	2,195,280
貯 蔵 品	109,176,743	前 受 運 賃	53,974,086
前 払 費 用	713,780	前 受 収 益	9,535,615
その他流動資産	51,000	賞 与 引 当 金	45,035,624
固定資産	15,451,983,202	固定負債	3,154,257,693
軌道事業固定資産	15,385,795,992	長 期 借 入 金	1,300,000,000
建設仮勘定	66,150,000	退 職 給 付 引 当 金	259,800,200
投資その他の資産	234,085	預 り 敷 金	900,000
貸倒引当金	▲196,875	預 り 保 証 金	2,550,000
		再評価に係る繰延税金負債	1,591,007,493
		(純資産の部)	12,938,915,474
		株 主 資 本	10,589,835,069
		資 本 金	3,000,000,000
		資 本 剰 余 金	6,871,521,775
		資本準備金	6,871,521,775
		利 益 剰 余 金	718,313,294
		その他利益剰余金	718,313,294
		繰越利益剰余金	718,313,294
		評 価 ・ 換 算 差 額 等	2,349,080,405
		土 地 再 評 価 差 額 金	2,349,080,405
資産合計	16,859,046,216	負債・純資産合計	16,859,046,216

(2) 損益計算書

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日 (単位：円)

科 目	金 額	
軌道事業		
営業収益	2,061,562,258	
営業費	1,914,206,786	
営業利益		147,355,472
軌道事業営業利益		147,355,472
営業外収益		
受取利息	2,567,758	
雑収入	88,961,496	
営業外費用		
雑支出	49,111	49,111
経常利益		238,835,615
特別損失		
固定資産除却損	180,861,348	180,861,348
税引前当期純利益		57,974,267
法人税、住民税及び事業税	35,454,120	35,454,120
当期純利益		22,520,147